

情報I メディアとコミュニケーション

教科書pp.26-33, (pp.34-37は読んでおいて)

メディア

- ・発信者から受信者に情報が届けられる際に、かかわったすべてのもの
- ・メディア(media)はmediumの複数形
 - ・medium: <<情報伝達などの>>媒体, 媒介(物), メディア; 手段, 方法(ウィズダム英和辞典 第4版)
- ・メディアの分類
 - ・表現メディア: 情報を表現する手段
 - ・伝達メディア: 情報を伝達する物体
 - ・情報メディア: 情報を送受信する仕組み

情報メディアの発達の歴史

- ・口頭→ 筆記→ 印刷物→ 電信・電話→ ラジオ
→ テレビ→ 電子メール
- ・データが増えていくような、制約を無視するような進化
 - ・表現メディアの観点から、
文字から音に、音から動画に進化
 - ・伝達メディアの観点から、
時刻に依存しないメディア(印刷物の紙)や
場所に依存しないメディア(電話の電気信号)に進化

メディアリテラシー

- ・二つの能力の総称(いろんな説明がある)
 1. メディアからの情報を主体的に読み解き,
客観的に評価する能力
 2. メディアにアクセスして活用し,
効果的にコミュニケーションを行う能力

メディアリテラシー

- ・受け取った情報は正しいとは限らない
 - ・情報の信用できる度合い(信憑性)が保証されていない
 - ・情報そのものの内容が正しいか間違っているかの度合い
 - ・インターネットだけでなく、新聞や書籍にも間違いはあります

メディアリテラシー

- ・情報の精度や正確さが損なわれていない度合い
(信頼性)の問題もある
 - ・伝達過程における問題の度合い
 - ・不正アクセスやプログラムの誤り,
ノイズによる伝達ミスによる間違いがありうる

コミュニケーション

- ・メッセージ(表現メディアによる情報)の交換により,
情報を互いに理解し, 共有すること
- ・友人と話す,
配信を見る, 本を読む,
信号・標識を見る

コミュニケーション

- ・コミュニケーションの分類
 - ・発信・受信者の人数による分類
 - ・1対1(個別型): 会話や手紙, 通話等
 - ・両者で情報を送受信し共有する
 - ・秘匿性を高めたり親密な会話をしたりできる
 - ・1対多(マスコミ型): テレビ等
 - ・1人(1組織)が情報源となって発信する
 - ・複数の人が同じ情報を共有できるが, 解釈のブレによる

コミュニケーション

- ・多対1(逆マスコミ型): アンケート等
 - ・複数の人が情報源となって発信し,
1人(1組織)が情報を受信する
 - ・多くの情報を得ることができるが,
間違いも存在することがある
- ・多対多(会議型): 会議等
 - ・複数の人がそれぞれ対等に情報源となって発信し,
それぞれが情報を共有する
 - ・多くの情報を得られる一方, 注意が散ることもある上,
感情が見えづらくなる

コミュニケーション

- ・発信・受信者の位置関係による分類
 - ・直接コミュニケーション: 会話
 - ・相手と対面して同じ場所でのコミュニケーション
 - ・非言語情報(表情, 声のトーン, ジェスチャー等)が伝わり, 誤解が起きづらい
 - ・間接コミュニケーション: 手紙
 - ・相手が離れたところにいて, 非対面でのコミュニケーション
 - ・文字だけ, 音声だけであり, 誤解が起きやすい面があり, 心理的な距離感をとりやすい面もある

コミュニケーション

- ・発信・受信者の同期性による分類
 - ・同期型コミュニケーション: 電話
 - ・情報の発信とほぼ同時に情報が受信される
コミュニケーション
 - ・やりとりが早いが、
コミュニケーションの記録がしづらい
 - ・非同期型コミュニケーション
 - ・情報を発信してから受信されるまでに
時間的な差が生じるコミュニケーション
 - ・忙しくてもコミュニケーション可能で、
タイムラグに意味を持たせる場合(未読無視等)もある